

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域の中での生活を継続し続けて行けるよう、又、地域との関係性をより良く強化していきたいとの思いを入れた事業所独自の理念を作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の中で理念を話題にしなが、共有、実践出来るように努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域の人々が、訪問時によく目に付く場所に掲示し、理解、浸透が徐々に出来てきている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の挨拶等出会えば声を掛け合い、地区長さんより地域の行事に誘って頂き参加したり、野菜の差し入れなども頂く。通りすがりに少しの暇があれば、差し入れに訪問下さる近隣のお年寄りも居られ一緒にお茶を飲み過ごされている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同一敷地内に隣接の特養、デイサービスと合同で地域交流の夏祭りを開催している。地域住民にもボランティアで出店に参加頂き、ご家族や友人等、近隣の方々が立ち寄られ入居者も参加される。又、毎年地元の保育園児の慰問による合同の運動会を入居者と共に行っている。	

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人としては行っているが、事業所独自としては地域に向けた研修会等は実地していない。運営推進会議時に、支援に関する知識や実践経験等について話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、評価の意義を理解し取り組んでいる。ケアの見直しも含め、職員全員でサービスの質を確保し向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況、入居者の状況、事故報告、職員の研修等を報告し、参加者からの意見、要望をサービス向上に活かせるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	適時の相談や連携が取れるよう市町村担当者との交流を極力図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、活用が必要な入居者はいないが、管理者や職員は内外研修に参加し、今後対象者が入居された場合を考え学んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にも積極的に参加し、日々の業務の中やミーティング時に話し合い虐待防止の周知徹底に努めている。		

グループホーム友愛

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、利用者やご家族等の不安や疑問等を尋ねながら、重要事項説明とともに、起こりうるリスクや重度化された場合に事業所として対応可能な範囲を説明し、同意を得るようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者本人の意見、苦情に耳を傾け、言葉や態度から本人の意向を探り、利用者本位のケアに努めている。その時々利用者の不安や不満等は全職員間で共有し、対応するよう心掛けている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族の来居時には必ず近況報告を心掛け、毎月の請求書送付時に1ヶ月間の様子報告書や写真とともに金銭出納帳のコピーを送付し、来居時に確認サインを頂いている。又、必要に応じて個々に適時、連絡・報告・相談をしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の訪問時にご本人や職員との会話の中で意見や要望を聞き取れる声掛けをしている。聞き取れた意見、要望等に対し柔軟に即対応できるようその都度職員間で話し合い共有し反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング時など定期的に職員の意見を聴き、反映するようになっている。又、日々の業務の中で気付く事や不安、不満等思いを個々に問い掛けたり、聞き出せるよう心掛けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状態変化時やご家族の状況に合わせた要望等、その都度、柔軟に勤務時間帯や出勤日を変更し対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の交代はあまり無いが、やむを得ない場合の異動等、入居者の方々の表に上手く出せない不安等ダメージがないか常に細心の注意を払っている。</p>	

グループホーム友愛

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内部、外部研修になるべく多くの職員が参加出来るようにし、報告書を作成してミーティング時に内容や気付いた点を発表してもらっている。又、日々の業務の中で職員個々に合わせた育成が出来る様努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に加盟しており、研修や相互実習で交流を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常や面談時に、職員のストレスや悩みを把握するように努めている。又、日々の中で疲労やストレス等が伺える場合は予定外の休日をいれる等出来るだけ配慮している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の得意分野を仕事に活かせる機会作りや、人事考課を取り入れ、やりがい、向上心を持てる環境作りに努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で状態を把握するよう努め、ご本人の不安や悩み、求めていること等を聴き取り、利用者によっては入居前から職員や入居者、環境に馴染めるよう遊びに来居頂いたり関係作りに努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学を兼ねて来居して頂き、事前面談でご家族の状況、困っている事や悩み、求めていること等をよく聴き、事業所として出来る対応を話し合っている。</p>	

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人がまず必要とされている支援を見極め必要とされているサービスを提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に入居者や環境、職員に馴染める様、見学して頂くことから始め、遊びに来居頂いたり、他のサービスを受けられている場合は職員が出向いたりしながら、顔馴染みの関係から利用開始して頂けるよう努めている。馴染めるまでご家族に相談、協力して頂き、関係サービス事業所職員等にも訪問頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の得意分野を発揮してもらい、知恵や風習、野菜作り等を教えて頂き協働しながら、穏やかな日常生活が出来るような場面作りや声掛けをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	様子報告書を毎月送り、本人の日々の暮らしの様子や身体的状況など、きめ細かく伝えている。本人に変化があれば、連絡し対処法を相談、ご本人を共に支える関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族、ご本人のお互いの思いや状況を見極め、伝える役割が出来るよう、来訪時は本人と家族が語り合い、よりよい関係を保てる場面作りをしている。又、ご家族の状況に配慮しつつ、夏祭りや行事への参加を誘ったり、共に過ごして頂く時間が少しでも多く持てる様働きかけを心掛けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に今も通っている利用者もいれば、昔馴染みの知人と手紙の交換を続けている利用者、又、地域に暮らす友人、知人等が、定期的に訪問されたりと個々に継続的な交流が出来ている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々、その時々々の状態や感情に合わせ、気の合う者同士で過ごせる場面作りをしている。食事やお茶の時間は職員も一緒にし、会話の少ない利用者も会話出来るよう介入を行い、職員が調整役をしながら、利用者同士で徐々にお互いに認め合い、かばいあいながら、関係性を築いていける様配慮を心掛けている。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院や他の施設に移られた利用者を訪問したり、ご家族に出会えば近況を尋ねたりしている。必要に応じてご家族からの相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のさりげない会話や言動等の中で僅かな事でも見逃さないよう本人の希望の把握に努めている。意思疎通の困難な方にも家族からの情報やご本人の日々の中での表情や行動、態度で把握するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時より、利用者ご本人又はご家族や入居以前の担当の介護支援専門員やサービス事業所からの情報収集を行っている。又、折りに触れ入居後もご本人、ご家族より聞き取り把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズム、日々の状態を記録、職員全体で共有出来るように、把握し、一日過ごされる中で日々出来ること、わかる力を見落とさないように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で、ご本人の困っている事、ご家族の思いや求めている事を取り入れられるよう、職員間で共有、意見交換しながら反映出来るよう努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に身体的、精神的変化があれば、その都度、介護計画を見直し家族、本人の状態に合わせ要望に応じられる様に努めている。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個別の日々の様子や変化が見られた時の身体的及び精神的状況を記録し、いつでも全職員が確認、共有できる。個別記録をもとに月1回のミーティングやケース会議で職員全員で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人、ご家族の状況に応じて通院等、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者のプライバシーに配慮しつつ、中学生の体験学習や本人と関係のある地域ボランティア等の受入れ、交流を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が馴染んで来た場所である地域の公共施設等へお花見や遠足、ドライブに出掛けている。又、個々の状態に合わせ隣接の法人内特養施設での訪問理容を利用することもある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者やご家族をよく知る介護支援専門員もいて必要に応じて密に連絡、相談し協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が入居前からのかかりつけ医を継続受診している。他科の受診や通院の必要がある場合は本人やご家族の希望に応じた医院で対応している。		

グループホーム友愛

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

グループホーム友愛

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の人格をよく知りプライバシーを損ねないよう配慮しながら、利用者の立場に立って、その人個々に合わせたさりげない言葉掛けや対応を職員全員が心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その日着る服装や食べたいメニュー、買物等、利用者が自己決定出来る場面作りをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や状態に配慮しながら、一日の生活を極力入居者個々のペースに合わせて行っている。家事参加を行ってくれる日もあれば、何もしたくない日、その日その時を入居者ひとり一人の思うペースで行って頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の好みやこだわりを大切に、身だしなみやおしゃれを楽しめるよう見守り、職員がさりげなく身だしなみやおしゃれの好みを自己決定できるよう誘い掛けている。又、入居前からの行きつけの美容室に通い、毛染めやパーマをしてもらう利用者がいる。訪問理美容を使わず、家族の了承を得て美容院へ出向き、おしゃれをする気分を味わって頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや身体機能、体調に合わせた対応をしながら、個々に出来る範囲の準備を手伝って頂き、職員も同じ食事を一緒に食べている。利用者と共に、教えて頂きながら育てた野菜を使い、張り合いや楽しみを持って頂ける場面作りを心掛けている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつ等、本人の嗜好物を制限せず、体調に合わせて楽しめるよう支援している。	

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	毎日の生活記録で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意のない利用者にも行動や時間を見計い、さりげないトイレ誘導をし、リハビリパンツやパットの使用を減らせるよう心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活習慣や利用者のその日の希望に合わせ、本人のペースでゆっくり入浴して頂き、体調に合わせて足浴やシャワー浴で対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間、寝付けぬ時には、一緒に暖かい飲み物や会話をし、安心して入眠して頂けるよう支援している。又、利用者個々のその日の状況や状態に合わせて、朝寝坊や昼寝で休息を補える様配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野や力を理解し、日々、洗濯物、掃除、食事作り等、出来る事は進んで行っていただけるよう支援している。又、生活習慣を継続できるよう、梅干しや干し柿作り、野菜作り等利用者が長年行い続けてきた経験、知恵を教わる場面作りをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に合わせ、一部の入居者は「自身のお小遣いを」と所持されている。家族の了解を得て、事業所がお金を預かり管理しているが、買い物時には、利用者の力や希望に合わせて本人が支払えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や本人のその日の状態に合わせてながら、買い物や近隣の散歩、美容院への外出等、本人の希望に添った外出支援を行っている。又、入居前に利用していた同一敷地内にある特養やデイサービスへ日常的に出入りし、お茶を頂いたり、馴染みの職員や利用者とは交流している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブ、外食、皆で作ったお弁当を持ち遠足やお花見等への外出支援を行っている。利用者個々の言葉から希望に添えるよう気候やその日の体調に合わせて気分転換や楽しみごとが増やせるよう努めている。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等にご本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りがある。ご家族からの近況伺いの電話があった場合はご本人に出てもらい会話して頂いている。又、毎年、ご本人の希望する方宛てに年賀状を出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間の決まりはなく、いつでも家族や馴染みの人達が気軽に訪問して頂けるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時や日々のケアの中で身体拘束となる行為を話し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。言葉による抑制にも職員全員が認識、留意し心掛けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけず、玄関センサーで対応している。利用者が外出される時は、職員がさりげない声掛けで見守り、同行し、安全面に配慮しながら自由に外の空気に触れられるよう対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者全員の状況、行動パターンを把握し、見守り、安全確認出来るよう努めている。夜間も個々の状況に合わせてプライバシーに配慮しながらも、常に気配が感じられる場所で記録等出来るよう工夫し、定期的に巡回し、利用者の安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、刃物、洗剤等決められた場所、危険のないところで保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員全員で利用者の状況に応じて、予測できる事故を予防できるよう検討、工夫している。事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因や再発防止について検討、職員全員で周知徹底している。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が普通救命講習を受け、機会がある度、研修会に参加し応急手当や事故発生時の対応について理解している。不安が有る場合はその都度話し合い対応方法を再度確認周知するよう努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による消防用設備等の点検や消火器や避難経路の確保、設備点検を行っている。ビデオ研修や隣接の特養施設の防災訓練に職員が参加し避難方法を身につけている。地域の協力も得られるよう、運営推進会議でお互いに協力し合えるよう呼びかけている。	○	今後、より一層、地域の方々とお互いに協力していけるよう努めたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	理解力、身体状況の変化に応じて、その都度、起こり得ることと、予防の為の対応策をご家族に説明し、常に利用者の自由な暮らしとさりげない介助が出来るよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前・午後にバイタルチェックを行い、状況により早めの医療受診をしている。一人ひとりの持病や留意事項を把握して、早期発見に取り組み、気付いた際には管理者に報告すると共に職員間で共有、早期対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を作成し、職員全員が内容を把握できるようにしている。服用時には、本人に手渡し、服用できたかの確認をしている。薬の処方・用量の変更があった場合や本人の状態変化がある時には、詳細に記録を取り、状況に応じて主治医に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品、ヤクルト等を採り入れ、散歩や身体を動かす機会を適度に誘いがけ出来るだけ自然排便出来る様取り組んでいる。又、個々の状態に合わせて、各主治医に相談し、便を柔らかくする薬や便秘を改善する薬等で対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、個々の力に応じて見守り、介助を行っている。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士に食事内容をチェックしてもらい、指導を受けている。個別の摂取食事量や内容を記録し、必要に応じて水分摂取を増やしたり、栄養補助剤、個々の嗜好品を取り入れる等、対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	内部、外部の感染症研修に参加し、早期予防、早期対応を実行している。入居者、職員全員がインフルエンザの予防接種を受けている。常に新しい情報を入手し、取り決めの確認・実行をし早期予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材を使用する為、まとめ買いを控え、まな板やふきん等は毎晩漂白し、冷蔵庫の掃除も定期的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりの掃除を欠かさず、花を植え、ベンチを置いて家庭的な雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事作りの匂いや他の入居者・職員の気配を感じながら、個々が落ち着いて暮らせる様な空間作りをしている。手作りの飾り付けをし季節感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、フロアの所々にソファやベンチを置き、個々に又は気の合う利用者同士が好きな場所で過ごせるようにしている。		

グループホーム友愛

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に理解と協力を求め、出来るだけ自宅から本人の使い慣れた物を居室に持ち込んでもらい、違和感なく生活してもらえる様に配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	要所に温湿度計を設置し、気温・湿度に応じて共有空間、居室が快適である様に常に温度調整している。定期的に空気の入れ替えも行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備自体が施設的でなく、個々の状態に合わせ、危険と思われる物は固定するなど、安心して自立した生活が出来るよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の意見を取り入れ、さりげない表示でそれぞれの場所を分かり易く表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋外には菜園スペースがあり、天候の良い日には庭先の散歩やベンチで日光浴を楽しみながら、利用者が花や野菜作りを手伝いながら教えて下さり、成長を楽しみにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム友愛

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者個々がたくさんの人と関わりながら、いかにその人らしく、楽しみを持ち続け、自由に生き生きと暮らしていけるかを職員全員で日々試行錯誤しながら、ご本人本位の個別の外出支援に出来る限りの力を入れ、日々のケアにあたっています。